

ツール 30：パワーランキング

このツールの目的

すべての人には異なるタイプのランクや特権があることを参加者に体験させ、それがグループの力関係にどのように影響するかを理解させる。

このツールを使うタイミング

発散フェーズにおいて、力関係にランクがどのように影響するかに関し、グループメンバーを敏感にさせる。グループ内に基本的な信頼関係が生まれている場合にのみ使用すること。このアクティビティにより、グループ内に大きなエネルギーが生まれる。

パワーランキングとは

このアクティビティでは、すべての人には異なるタイプのランク、言い換えれば「特権の総量」があることを、参加者は自ら体験する。

ランクの概念について

Arnold Mindellの説明によれば、ランクとは、グループの階層における個々人の影響力を示すものだ。言い換えれば、個々人の社会的・人的パワーのレベルを意味している。ランクが拠って立つのは、以下のようなさまざまな力の源泉だ：

- 状況的ランク：組織におけるポジション 等
- 社会的ランク：性別や教育レベル、人種 等
- 人的ランク：カリスマ性がある、自信がない、衝突を避ける 等
- 精神的ランク：何か超越的なものとつながっていると感じている、自分の天命を知っている 等

興味深いことに、人は多くの場合、自分に特定のランクがあることを知らない。我々は往々にして、自分自身のランクを高めることに力を注ぐのではなく、力を持つ人のランクを低減することに注力しがちだ。MSP内のステークホルダー間で働く微妙な力関係を理解するに当たっての第一歩は、ランクというものが、いかに自分や他者に影響を与えるかを認識することである。

ランクとは、関係性の中で生まれるものだ。我々が認識しているかしていないかに関わらず、ランクはメンバー間の関わり方に影響を与える。なぜなら、他者が我々をどう見ているかに対してと同様、我々が自分自身をどう認識しているかに対しても、ランクは影響を与えるからだ。異なるタイプの力学が働くにつれ、ある時点での力に対する認識は、次の時点ではあつという間に別物になってしまう場合がある。また、ほとんどの人にありがちなのは、他者のランクが自分に与える影響には敏感なのに、自分のランクが他者に与える影響には無自覚だということである。

パワーランキング – ステップ・バイ・ステップ

このグループアクティビティを行う際には、入念な準備が必要となる。さまざまなランクを記載した紙片の束を用意する。アクティビティをスムーズに進めるため、第4のタイプのランク（精神的ランク）は扱わない。参加者の人数と同程度の数のランクを記載するようにする（大人数グループの場合、そのグループを2つのグループに分け、同じ内容が書かれた紙片を2組用意するようにする）。このアクティビティでは、議論が拡散し、コントロール不可能になることが多いため、タイムマネジメントが重要である。

グループメンバーに、現地での重要な問題を検討する上で、特定の状況下において最も大きな意思決定力を持つ者は誰かについて考えるアクティビティだということを説明する。たとえば、次のような問を投げかける：「ケニアにおいて石油採掘を始めるに当たり、最も大きな意思決定権を持つのは誰だろうか？」

参加者全員に、立ち上がって列を作るように言う。各メンバーに、「状況的ランク」(表を参照のこと)の紙片の束から1枚ずつ手渡し、10分間のうちにランク付けを行うように言う。つまり、最も大きな意思決定権を持つ者を先頭に、最も意思決定権のない者が最後尾となるよう並ぶ。

ケニアにおける石油採掘についての意思決定であれば、以下のようなランクが想定できるだろう：

状況的ランク	社会的ランク	人的ランク
1. NGOのスタッフメンバー(プロジェクトマネジャー)	1. 男性	1. 高い自己肯定感
2. NGOのディレクター	2. 女性	2. カリスマ性がある
3. 現地NGOのディレクター	3. 若者(25歳)	3. 自信がない
4. 人権活動家	4. より高齢(55歳)	4. 他人に影響を与えるのに困難を感じる
5. 経済大臣	5. 博士号保有者	5. 他人に影響を与えるのが非常にうまい
6. 多国籍企業のディレクター	6. 非常に魅力的	6. 衝突を避ける
7. 研究機関の研究者	7. 少数民族	7. コミュニケーションスキルが低い
8. 金融機関(銀行)のディレクター	8. 非常に影響力のある家系	8. 心の知能指数が高い
9. BBCのジャーナリスト	9. 独身	9. 非常に競争力が高い
10. コミュニティリーダー	10. 子供が12人	10. 非常に勇気がある
11. 現地当局	11. 障がい者	11. 非常にコミュニケーション力がある
12. 採掘会社	12. 貧困家族	12. とても恥ずかしがり屋
13. 資金提供者(世界銀行)	13. 裕福な家族	13. 生まれつきのリーダー

ラインが出来上がったら、最も意思決定権が大きい/小さいとされた人に、次のような質問を行う：「あなたがいる場所に立っているとどんな気持ちになりますか？」政治・経済システムについての議論を交わすだけでなく、気持ちを表現する余地を残すことが重要である。

最初のラウンドの終了後、ファシリテーターは、「社会的ランク」の束から、2枚目のランクのカードを渡す(備考：最初に割り当てたランクに加えた形で)。ここでのアクティビティとは、10分のうちにラインを作り替え、各人の順番が変わったか、変わったとすればどう変わったかを確認することである。もしも位置の変動があった場合は、今回もファシリテーターは、列の中で位置が上がったり下がったりしたことについての気持ちを尋ねる。

続く第3ラウンドで、参加者は(「人的ランク」の束から)3枚目のランクを渡される。持っている紙片のランクの組み合わせが直感に反したのやあまり論理的でないものとなるように気を付ける。たとえば「現地当局」の紙片を持っている人には「生まれつきのリーダー」を、「世界銀行の資金提供者」には「まったく自信がない」を渡す。これにより、列の中の順番がいくらか変わる。5~10分後、何人かの参加者に感想を聞くようにする(それまでしゃべっていない人を必ず含めるようにする)。

さらに知りたい方は：

CDI研修資料

Mindell, Arnold (1995) *Sitting in the Fire: Large Group Transformation using Conflict and Diversity*, Portland: Lao Tse Press.